

リンゴコブアブラムシ

リンゴやボケの若葉に群生するアブラムシ。最大長2mm弱。体は暗い緑色。春から秋までみられる。若葉の裏側に寄生し、葉が裏側を中にして縦巻きになる。

リンゴの主要な害虫とされる。

【学名】 *Myzus maliscutus*

【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) , アブラムシ科 (Aphididae)

【生態】

宿主：リンゴ, ボケ。

枝先の冬芽の近くやしわの部分で卵で越冬する。芽が開く頃に卵から幼虫が孵化し、新葉の裏側に定着し、樹液を吸って加害を始める。春から秋まで世代を繰り返す。新梢が伸びる時期に発生が多い。

【文献】

1986. 山口昭, 大竹昭郎, 編集. 果樹の病虫害, 診断と防除. 全国農村教育協会, 東京. (形態, 生態, 被害, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

リンゴコブアブラムシ abura/ringkob/

kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2002/1/14.